



**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	産褥・育児期女性の理解を深める授業方法の工夫—当事者参加授業による学生の学びの分析より—
Author(s)	正岡, 経子; 山口, 雅子; 杉山, 厚子
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要,第 13 号: 65-69
Issue Date	2011 年
DOI	10.15114/bshs.13.65
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6369">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6369</a>
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

## 産褥・育児期女性の理解を深める授業方法の工夫 —当事者参加授業による学生の学びの分析より—

正岡経子、山口雅子、杉山厚子  
札幌医科大学保健医療学部看護学科

目的は、乳幼児を育児中の女性の子育て体験談から学生の学びを明らかにすることである。対象者はA大学看護学科3年生48名で、データは子育て体験談を聴いて感じたこと、学んだことについての自由記載により収集した。分析は、記述内容について意味のある単文を記録単位としてコード化し、内容の類似性に従いカテゴリーに分類した。結果、記述内容は248項目あり、『母子から受けたポジティブな感情』、『教科書でわからないリアルな実感』、『女性の心身の状態と家族の理解』、『看護師の役割認識』、『実習・学習意欲の向上』、『個別性の理解』、『出産・子育てへの憧れ』、『看護学生として役に立てる発見と喜び』の8カテゴリーに分類された。学生は、当事者の生の声を通して体験に近づき、相手の立場にたった学びを通して周産期からの一連の流れの中で対象者を理解しており、さらに、当事者と関わることで学生自身がエンパワーメントされ学習意欲が向上していることがわかった。

キーワード：母性看護学 当事者参加授業、子育て体験談 看護学生

### Development of lectures to help nursing students gain a deeper understanding of women in the childbirth and parenting phase —Effects of interactive lectures with mothers as guest speakers—

Keiko MASAOKA, Masako YAMAGUCHI, Atsuko SUGIYAMA

Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

This study was carried out to find out the effects on the nursing students' learning of interactive lectures to which child-rearing mothers were invited to talk about their experiences. 48 third-year nursing students from a particular university were asked to freely make written statements about how they felt and what they learnt after attending such lectures. Meaningful simple sentences were extracted from returned statements and treated as recording units in statistical analysis. 248 items thus obtained could be classified into the following eight categories on the basis of similarity:-

“Positive feelings about the mother and child”, “getting a real sense about motherhood which cannot be learnt from textbooks”, “understanding the physical and emotional state of women and family matters”, “recognizing the role of nurses”, “increased motivation for practical training and learning”, “understanding the individuality”, “adoration for motherhood”, and “finding joy in helping others”. The study showed that the students could relate more to motherhood experience after listening directly to the guest speakers and were able to understand the mother at various stages of the perinatal to parenting phase by putting themselves in her shoes. It also suggested that the students were empowered by interaction with the mothers, with enhanced motivation for learning.

Key words : Maternal nursing, Interactive lectures with guest speakers, Talks about parenting experience, Nursing students

Bull. Sch.Hlth.Sci.Sapporo Med. Univ 13:65-69(2011)

## I はじめに

近年、少子化、核家族化とともに地域住民同士の関わりの希薄化により、看護学生は妊産褥婦や子どもと接する機会が少なく、具体的にイメージすることが困難な状況におかれている。

このような状況をふまえ、看護教育では学生の対象理解を促すための教育方法を工夫しており、その学習効果について検討されている。母性看護領域における先行研究では、妊婦の理解を促す教育方法として妊婦体験ジャケット着用による妊婦体験学習<sup>1)~3)</sup>、褥婦の理解を促すためのロールプレイングを取り入れたシミュレーション学習<sup>4)</sup>、新生児の理解を促すための育児疑似体験人形を活用した演習<sup>5)</sup>や模擬胎便を用いたオムツ交換技術演習<sup>6)</sup>についての学習効果が報告されている。

看護の対象者と家族を理解するための授業に当事者を招きその体験談を聴く取り組みは、以前より行われており、その学習成果が報告されている<sup>7)~8)</sup>。母性看護学領域においては、正常妊婦とハイリスク出産を経験した夫婦の語りからの学びについての報告はあるが<sup>9)~10)</sup>、育児中の女性の体験談からの学習成果を分析した研究はみあたらない。当事者参加授業は、授業のねらいとしていることをはるかに越えた学習成果が得られると言われており<sup>11)</sup>、母性看護学実習開始前に学生が育児中の女性と直接関わり、子育て体験談を通して得た学びを明らかにすることは、今後の効果的な教育方法を検討する上で意義があると考えた。

本研究の目的は、育児中の女性の子育て体験談を聞いた学生の感じたこと、学んだことから、本演習の学習効果を明らかにすることである。

### 用語の定義

当事者参加授業：本研究では、乳幼児を育児中の女性を大学に招き、母性看護学の授業時間内で行われる女性の出産から子育て体験についての語りを中心とした授業をさす。

## II 演習の概要

### 1. 単位数と開講時期

本学の母性看護学は、母子健康看護論（1単位、15時間、2年次後期）、母子看護活動論Ⅰ（2単位、30時間、2年次後期）、母子看護活動論Ⅱ（1単位、30時間、3年次前期）、母子看護学実習Ⅰ（2単位、90時間、3年次後期）で構成されている。子育て体験談の演習は、2007年度より母子看護活動論Ⅱの3講で行っている。

### 2. 演習目的と目標

演習目的は、育児中の女性から子育て体験談を聞き、意図的なインタビューを通して産褥・育児期女性の心身・社会的状態を具体的にイメージし、その全体像を捉えることである。目標は、1.産褥・育児期女性の心身・社会的状態

を理解するために必要な質問項目をあげ、2.対象者の状況に配慮しながらコミュニケーションをとり、3.女性の心身、社会的状態の多様性について理解できることである。

### 3. 演習方法

演習は、学生が女性に質問するインタビュー形式で行っている。オリエンテーションを行い、演習目的および目標、演習方法、インタビューする女性についての情報（年齢、職業、子どもの年齢、分娩様式）、質問内容は出産、産褥入院中から育児中の女性の心身および社会的状況とする等を説明した。次に、学生を10~11名の5グループに編成しグループごとに質問内容、進行方法や会場設営を検討した。各グループの質問内容は、事前にインタビューを受ける女性にFAXまたは郵送にて送付した。質問内容は、妊娠中の心身の状態と周囲の反応、分娩経過と立ち会いの有無、産後の身体の変化とマタニティブルーズの有無、育児の悩み、医療者からの支援や社会資源の活用状況などであった。各グループに専任または非常勤教員1名を配置したが、インタビューの運営は学生主体で進めるよう促しインタビュー終了後の全体共有の進行のみ教員が行った。

## III 研究方法

### 1. 研究対象

A大学看護学科3年生51名中、演習に参加した48名の学生で男子学生10名を含む。

### 2. データ収集

演習は、2010年6月24日と7月1日に実施した。演習終了後に10分程度の時間を設け、子育て体験談を聞いて感じたことや学んだことについて、A5用紙1枚に自由に記載してもらった。

### 3. 分析方法

分析は、文脈の中から概念を抽出するための分析方法<sup>12)</sup>を参考にして行った。まず、自由記載内容を意味のある単文ごとに分け記録単位とした。次に、データの意味内容を損なわないよう、できるだけ学生の言葉を用いながらコード化した。最後に、内容の同質のもの、類似するものをまとめてサブカテゴリー化し、さらに類似するものをまとめてカテゴリーに分類した。分析は、質的・帰納的研究経験のある共同研究者で行い、ディスカッションを通してお互いに合意するプロセスを踏むことで信頼性の確保に努めた。

### 4. 倫理的配慮

学生に文書と口頭にて、演習終了後の学びの記載内容を分析し社会に公表すること、公表する際にはプライバシーが守られること、研究協力は任意であること、学業上の成績には一切関係ないことを説明し同意を得た。

## Ⅳ 結 果

演習に協力の得られた女性の背景を表1に示した。学生の記述内容は240項目抽出され、内容を分析した結果、39サブカテゴリーから8カテゴリーに分類された(表2)。以下、カテゴリーは『 』で、サブカテゴリーは〈 〉で示す。文中の「 」は学生の記載内容の一部を示す。

### 1. 『母子から受けたポジティブな感情』

このカテゴリーは、学生が子育て体験談を語る女性とそばにいる子どもに対して感じた肯定的な気持ちを示しており、〈生き生きと輝いている〉、〈楽しくて幸せな気持ちになった〉など5サブカテゴリーが含まれていた。具体的な内容には、「出産や育児に関して生き生きと話されていた。子育ては心を豊にするのだと感じ、とても幸せな気持ちになった」などがあつた。

### 2. 『教科書でわからないリアルな実感』

このカテゴリーは、女性が出産時に受けた処置や心身の変化などリアルに体感した状況からの学びを示しており、〈生の声の新鮮さとインパクトの強さ〉、〈その人が体感したリアルな状況〉など5サブカテゴリーが含まれていた。具体的な内容には、「会陰切開をした時に“ブチンとなった”というリアルな話がきけた」、「教科書や紙上事例ではわからない細かいことやどのように体感するのかを聴くことができ、どのように妊産婦さんに関わっていけばよいのかヒントを得られた」などがあつた。

### 3. 『女性の心身の状態と家族の理解』

このカテゴリーは、妊産褥・育児期を通しての女性の心身の状態や家族に関する学びを示しており、〈妊産褥・育児期女性の心理〉、〈妊産褥・育児期女性の身体の辛さ〉、〈夫・父親役割の重要性〉など6サブカテゴリーが含まれていた。具体的な内容には、「眠れなかったりつわりが辛かったり、匂いに敏感になったりと日常生活がとても大変になる上に、自分の身体にわからない変化が起こっている不安、今後の育児ができるのかという心配、マタニティブルーの苦しさを聴いてお母さんに対するイメージがもてた」などがあつた。

### 4. 『看護師の役割認識』

このカテゴリーは、子育て体験談を聞いて学生が考えた看護師の役割を示しており、〈対象者の状態をよく観て気

持ちを察知する〉、〈対象者を中心に考え、個性に応じた看護〉、〈夫や家族を含めた看護〉など9サブカテゴリーが含まれていた。具体的な内容には、「出産、育児はわからないこと、不安、疲労が多く容易なことではない。その不安が睡眠不足によるものなのか、周りの援助が足りないからなのか、お母さんや家族は何を求めているのかを判断しケアを行っていくことが必要」、「出産が初めてだと、わからないことだらけなので、看護師はそのことを察知し丁寧に接することが必要」などがあつた。

### 5. 『実習・学習意欲の向上』

このカテゴリーは、子育て体験談を聞いたことによる実習に向けての学習意欲や母子への興味・関心の高まりを示しており、〈母親の助けとなるよう実習で頑張りたい〉、〈講義、演習で習ったことを実習で活かせるよう復習する〉など5サブカテゴリーが含まれていた。具体的な内容には、「今回お話を聴いて学んだことを実習でも活かして、少しでもお母さんの力になれたらと思った」、「演習でやったことを実習で行い、疲れたお母さんを癒してあげられると良い」などがあつた。

### 6. 『個別性の理解』

このカテゴリーは、5人の女性の出産・育児体験の違いや、学生が身近な人から聞いた子育て体験談との比較から個別性の理解についての学びを示している。このカテゴリーには、〈5人の女性の子育て体験の違い〉、〈実母や知人から聞いた子育て体験との違い〉など3サブカテゴリーが含まれていた。具体的な内容には、「5人のお母さんについて



写真1 当事者参加授業の様子

表1 演習に協力した女性の背景

	年齢	子どもの年齢	分娩様式	母子の健康状態	体験談の経験回数
A氏	30代後半	第1子5歳、第2子2歳	経膈分娩	良好	4回目
B氏	30代中	第1子5歳、第2子1歳	経膈分娩	良好	2回目
C氏	30代後半	第1子6歳、第2子1歳	経膈分娩	良好	4回目
D氏	30代後半	第1子5歳、第2子2歳	経膈分娩	良好	3回目
E氏	40代前半	第1子5歳	経膈分娩	良好	2回目

表2 子育て体験談を聴いて学生が感じたこと・学んだこと

n=248

カテゴリー	サブカテゴリー	記載数n (%)
母子から受けたポジティブな感情	生き生きと輝いている	21
	楽しくて、幸せな気持ちになった	15
	話を聴けて嬉しく、力をもらった	5
	感謝の気持ち	3
	子どもが純粋でかわいい	2
教科書でわからないリアルな状況	生の声の新鮮さとインパクトの強さ	14
	出産・育児を通しての具体的な心身の状態	9
	その人が体感したリアルな状況	8
	子どもの成長発達と関わり方の発見	6
	子育ての大変さと楽しさの実感	4
女性の心身の状態と家族についての理解	妊産褥期・子育て期女性の心理	17
	妊産褥期・子育て期女性の身体の辛さ	8
	妊産褥婦のニーズ	4
	夫・父親役割の重要性	5
	日常生活・家族・女性の人生との関連での妊娠・出産の捉えの変化	4
	妊産褥婦のイメージ化	2
看護師の役割認識	対象者の状態を良く観て、気持ちを察知する	11
	対象者を中心に考え、個別性に応じた看護	7
	夫や家族を含めた看護	5
	対象者を安心させる看護	4
	学んできた技術の有効性と看護のイメージ化	3
	苦痛・辛さの軽減	3
	丁寧で優しく対応する	3
	出産に対する援助	2
	知識の提供	2
実習・学習意欲の向上	母親の助けとなるよう実習で頑張りたい	24
	講義、演習で習ったことを、実習で活かせるよう復習したい	6
	母子への興味・関心	3
	実習が楽しみ	3
	実習で夫と関わりたい	1
個別性の理解	5人の母親の子育て体験の違い	10
	実母や知人の子育て体験との違い	5
	第1子・第2子の子育て体験の違い	3
出産・子育てへの憧れ	早く子どもが欲しい	10
	出産を体験してみたい	2
	素敵な母親、親子になりたい	3
看護学生として役に立てる発見と喜び	看護学生にも出来ることがあり役に立つ存在	5
	看護学生のケアの効果	3
	看護学生へのニーズ	3

て学びを共有したが、経過や感情など様々で個別性に応じた看護が必要だ」、「自分の母親や知り合いから聴く話とも違う話をたくさん聴くことができた」などがあった。

7. 『出産・子育てへの憧れ』

このカテゴリーは、母親になることや出産体験への憧れの気持ちを示しており、〈早く子どもが欲しい〉、〈出産を体験してみたい〉など3サブカテゴリーが含まれていた。

具体的な内容には、「自分も子どもを産みたいと思った」、「妊娠、出産、子育ての生の声を聴き、出産っていいなと思った」などがあった。

8. 『看護学生として役に立てる発見と喜び』

このカテゴリーは、看護学生としての自分にも出来ることがあると発見した喜びの気持ちを示しており、〈看護学生でも役に立つ嬉しさ〉、〈看護学生のケアの効果の実

感) など3サブカテゴリーが含まれていた。具体的な内容には、「知識も技術もない学生の私でも力になることができるかもしれないと思えたので、実習では精一杯力を尽くそうと思う」などがあつた。

## V 考 察

当事者参加授業は、産褥・育児期にある女性の心身・社会的状態を具体的にイメージし、その全体像を捉えることを目的に実施している。これまでの報告においても、当事者参加授業の目的を対象者本人の理解としているものが約6割と多い<sup>8)</sup>。学生の自由記載の分析結果をみると、『女性の心身の状態と家族の理解』、『個別性の理解』、『教科書ではわからないリアルな状況』が40.3%を占めており、学生は、当事者の生の声を通して体験に近づき、相手の立場にたった学びを通して対象者を理解しており、目標に沿った学習成果は得られていると考える。しかし、先行研究<sup>9)</sup>と同様に夫や家族に関する記述は少なく、対象者本人の理解にとどまっている結果であつた。母子を中心に夫や家族を含めた子育ての経験やソーシャルサポートとの関連についての理解を促進するための授業の工夫が必要である。

学生の記述で対象理解とほぼ同率を占めていたのは、『母子から受けたポジティブな感情』、『実習・学習意欲の向上』、『出産・子育てへの憧れ』、『看護学生として役に立てる発見と喜び』で44.0%であつた。当事者参加授業では、情緒的で共感的な学びや学習意欲の向上が得られることは明らかにされており<sup>10)</sup>、他の授業形態では学習しがたい情意面の学習成果であると考えられる。先行研究では<sup>9),10)</sup>、感情面に関する記載は約2割程度であるのに対し、本研究では約4割の記載があり多い結果となつた。その背景には、授業形態の違いがあると考えられる。先行研究では、当事者1名による体験の語りの後に学生からの質疑応答という展開で行っているが、本授業では、当事者5名の協力を得て学生を少人数のグループに編成し、学生が主体となってインタビューする方法で行っている。これにより、当事者と学生の物理的距離が近くなり同時に心理的距離も接近し、当事者が体験している世界に引き込まれ、学生自身がエンパワーメントされた結果であると考えられる。

当事者が授業に参加し、女性の人生の一部として子育てを語る生の物語により、学生は周産期から育児までの一連の流れの中で対象者を理解していた。さらに、5名の女性の体験を全体共有することにより子育ての個別性を実感し、学生自身が看護とはどうあるべきかを考え、看護師の役割認識へとつながっており、本演習の取り組みによる学習成果は大きいと考える。しかし一方で、学生がこれまでの講義や演習を通して理解したことやイメージしたこととの相違を振り返り、自己の課題を明確化した記述は少なかった。学生が自己の変化に気づき課題を明確にすることは、自分の目標に向かって主体的に学習する内発的動機づけにつな

がるため、今後は子育て体験談を聴いた前後の自己の変化に気づくための、教員の意図的な関わりが必要と考える。

今後の課題は、学生の学習や実習に向けての意欲を継続し、学生自身が認識した対象者の声に耳を傾け気持ちを察知する看護の実践につながるよう指導することである。

## 謝 辞

本演習にご協力いただき子育て体験を語って下さった5名の協力者の皆様と、本研究に自らの学びを提供していただきました学生の皆様に心より感謝いたします。

## 引用文献

- 1) 榮玲子, 野口純子, 植村裕子他:母性看護学における演習の学習効果. 母性衛生44:93-97, 2003
- 2) 笹野京子, 加城貴美子, 高塚麻由他:看護学生における妊婦体験学習効果. 新潟県立看護短期大学紀要10:1-8, 2004
- 3) 杉山智春, 坊垣友美:妊婦体験用モデルと胎児発育教材を用いた演習の学習効果. 日本看護教育学会誌18:63-69, 2008
- 4) 山下貴美子, 伏見正江, 森越美香他:母性看護学臨地実習ストラテジーに向けた教授方法の工夫. 山梨県立看護大学短期大学部紀要12:67-76, 2006
- 5) 植村裕子, 榮玲子, 松村恵子:母性看護学における育児疑似体験人形を活用した演習効果. 母性衛生49:107-113, 2008
- 6) 永井祥子, 藤原友紀子, 大賀明子他:模擬胎便を用いたおむつ交換技術演習の評価. 母性衛生50:182-189, 2009
- 7) 田中美恵子, 菅原とよ子, 若狭紅子他:当事者による精神看護学の講義から学生は何を学んだか. 東京女子医科大学看護学部紀要5:67-72, 2002
- 8) 中谷千尋, 森川三郎, 上田康子他:看護基礎教育における当事者参加授業の教育成果と課題. 目白大学健康科学研究1:139-147, 2008
- 9) 山下貴美子, 伏見正江, 森越美香他:当事者参加授業を発展させるための取り組み. 山梨県立看護大学短期大学部紀要10:31-43, 2004
- 10) 森越美香, 伏見正江, 山下貴美子他:母性看護学における当事者参加授業学習効果. 山梨県立看護大学短期大学部紀要11:25-34, 2005
- 11) 森川三郎, 中谷千尋, 伏見正江他:「当事者参加授業」の教育成果と概念モデルの検討. 山梨県立看護大学短期大学部紀要10:17-30, 2004
- 12) 萱間真美:質的研究実践ノート. 東京, 医学書院, 2007, p31-49